

行ってみよう、見てみよう町田の遺跡

町田市は都内でもトップクラスの遺跡数を誇り、歴史的な意義のある貴重な遺物が多数発掘されています。なかには史跡指定(国、都、市)され、当時の状況を再現したり、公園整備を行ったりして見学できる遺跡があります。また、考古資料室では市内の優れた出土品を公開しています。当時の人々の思いを今に伝える遺跡を是非見に来てください。

多摩境駅から徒歩5分、日本で一番駅から近いストーンサークル！

田端環状積石遺構(都指定史跡) 小山町3112-2他



▲ストーンサークル9×7m、写真はレプリカ、本物はこの直下に保存されています

町田のストーンサークルとは？

今から3700年前頃(縄文後期)、約30か所の墓の上に大小900個以上の石をサークル状に積み上げてつくられた祭祀センターです。2700年前頃(縄文晩期)までの約1000年にわたり、様々な祈りが捧げられる場として機能しました。ここからは土偶、石棒、土器、大珠(装身具)などが出土しています。

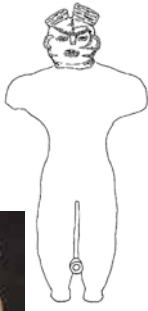
何のためにつくられたの？

ここ田端は、南西側に丹沢山塊が眺望でき、冬至には、最高峰の蛭ヶ岳山頂に太陽が沈みます。縄文人は昼間が一番短い冬至を太陽の死とみなし、人の死のイメージと重ね合わせていました。春にむかって太陽が再び光を増すように、人の命の再生を願ってストーンサークルを造営したと考えられています。

また、当時の富士山は噴火活動の活発だった時期にあたります。田端からは富士山の火口も覗いており、その火口から轟音とともに火柱があがっていたとしたら、町田の縄文人にとって大変恐ろしい光景だったことでしょう。ストーンサークルの造営は、こうした天変地異を鎮める目的もあったのではないのでしょうか。

故郷は北海道？謎の土偶「まっくう」

町田市の「まち」と中空土偶の「くう」を合わせて「まっくう」と呼ばれています。町田市考古資料室でお待ちしています！



◀まっくう
(中空土偶頭部、高さ7cm、厚さ約3mmの中空構造、田端東遺跡出土、町田市指定有形文化財) ※胸部シルエットは函館市著保内野(ちょぼない)遺跡出土の国宝土偶の形を借用しました。

助っ人土偶の登場

田端環状積石遺構からほど近い田端東遺跡から出土した中空土偶頭部の「まっくう」は、非常に珍しい形をした土偶で、町田市の周辺では他に出土していません。なんと、町田から遠く離れた北海道函館市で、これと同一様式の中空土偶(国宝カックウ)が出土しているのです。これはどういうことなのでしょう。

諸説ありますが、天変地異を鎮めたり、その他の様々な祈りを捧げるためには祖先の霊力では足りなかったのか、田端にストーンサークルがつくられて300年ほど経った頃、別の土地から強い力を持った新たな土偶が招かれたのではないかと考えられています。縄文人の願望実現にむけた切実な思いが現れているかのようです。

こちらもおすすめ！当時の暮らしに想いをさせて

本町田遺跡(都指定史跡) 本町田3455-36他

縄文住居4軒、弥生住居7軒が発掘されました。各時代の住居が1軒ずつ復元され、開園日は茅葺屋根の屋内にも入れます。気持ちのいい遺跡公園を、のんびりお散歩してみませんか。(年末年始を除く月曜以外開園9時～16時半)

縄文前期 約6000年前・弥生中期 約2000年前の一般的なムラ▶



珍しい土器や石器を見よう！



町田市考古資料室

下小山田町4016

◀縄文時代から中世までの出土品約200点を公開しています。(年末年始を除く第2・4土日祝日のみ開室10時～16時、駐車場あり)



国内最大級の石棒

◀彫刻付大形石棒 縄文中期(約5000年前)
全長1.8m、重さ約55kg、幾何学文様が彫刻された子孫繁栄を祈る巨大な祭祀道具。この石棒は、祭りの最後に住居ごと火だるまにされ、1300点もの破片となってしまった凄まじい逸品です。忠生遺跡A地区(木曾西二丁目)出土



全国に3例しかない貴重品

◀クルミ形土器 縄文中期(約5300年前)
直径約22cm、器高約7cm、クルミの実を2つに割って中身を取り出したあのかたちで、獣の顔面とみられる装飾がつけられた造形はこの資料だけです。木曾中学校遺跡(木曾西二丁目)出土